

「のり枠工の設計・施工指針（改訂版）平成 18 年 11 月」の訂正と補足

平成 18 年 11 月発行の「のり枠工の設計・施工指針」について、下記のように訂正いたします。

1. p 51 鉄筋のあきを求める式に誤植がありました。

誤	正
鉄筋のあき = $\frac{(\ell - 4\phi)}{n - 1}$	鉄筋のあき = $\frac{(\ell - n\phi)}{n - 1}$
ℓ : 鉄筋の配置長 ϕ ; 鉄筋径 n ; 鉄筋本数	ℓ : 鉄筋の配置長 ϕ ; 鉄筋径 n ; 鉄筋本数

2. 付録-1 について

計算例を、下記事項を考慮して修正し掲載いたしました。

修正箇所、追記は、赤字としました。

- 1) 計算例の記号について

計算例の記号と本編の記号が一部異なっておりしたので、極力本編の記号と同じにしました。

また、ホームページ上の「記号説明」もあわせてご参照下さい。

- 2) p 付 2 作用最大モーメント

付録-1 では、径間部の最大曲げモーメントを用いて計算例を示していますが、**付録 図 1.3** に示したモデルでは、張出部において最大モーメントが発生します。
(下式参照)

$$M_{\max} = \frac{1}{2} \times W \times L_1^2 = \frac{1}{2} \times 72.36 \times 1,500^2 = 81.41 \times 10^6 \text{ N} \cdot \text{mm}$$

上記モーメントを用いた計算例を添付しますので、ご参照下さい。

3) p 付 7 a) 曲げひび割れの算出に下記のような脱字がありました。

脱 字

(1) 曲げひび割れに対する照査

a) 曲げひび割れ幅の算出

鋼材の表面形状がひび割れに及ぼす影響係数	$k_1 = 1.00$
モルタルの品質がひび割れ幅に及ぼす影響係数	$k_2 = 0.9$
引張り鉄筋の段数の影響を表す係数	$k_3 = 5(n+1) / (7n+8) = 1.0$
引張り鉄筋の段数	$n = 1.0$
ひび割れ幅の増加を考慮する係数	$\varepsilon'_{csd} = 150 \times 10^{-6}$
鉄筋応力の増加量 (鉄筋の応力度)	$\sigma_{se} = M_{pd} / (A_s \cdot j \cdot d) = 81.41 \times 10^6 / (1,146 \times 0.909 \times 410) = 190.61 \text{ N/mm}^2$
	$j = 1 - k / 3 = 1 - 0.272 / 3 = 0.909$
	$k = \sqrt{(2n' \cdot p + (n' \cdot p)^2)} - n' \cdot p = 0.272$
	$n' = E_s / E_c = 200 / 22 = 9.09$
	$E_s = 200 \times 10^3 \text{ N/mm}^2$
	$E_c = 22 \times 10^3 \text{ N/mm}^2$